

ハリ マ デイヴィッド 米国出身の元キリスト教徒

:

明:
父 にキリスト教徒として育てられた米国人の少女は、大学 学 のシカゴからコロラド州への引っ越しを に、イスラ ムを知ります。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ハリ マ デイヴィッド

日 20 Jul 2015

集日 20 Jul 2015



父は、男手一つで私をキリスト教徒として育ててくれました。彼はキリスト教徒的なを一生 命私に教え みました。私は小学生の からバイブルを良く んでいたため（分からない言 は ばしつつ）、そこに矛盾があること（豚肉を食べること、イエスの死 彼に神の慈悲と祝福あれ など）に 付いていました。

12 の には、既に自分がキリスト教を本当は信じてはいないことに 付いてはいたものの、どうしたらいいのかわかりませんでした。私は神を意 し け、真理を示してくれるよう祈っていました。 、私はとても 繁に神に祈りました。私には多くの疑 がありました。「なぜ自分は存在するのか」「私がこの地球にいる目的とは何なのか」こうした は ものがするものでしょう。

人、そして人が存在する世界の双方を成する解な がせる多性とさは、それをった造の存在を示唆しています。されたものには者の存在が不可欠です。海の砂浜に足あとが残っていれば、少し前にかがそこをいていたということを直ちに付けることができます。海の波が、人の足あとと全く同じようなくぼみを偶然作り出すといったことを付ける人はいません。同じように、人が目的もなく存在させられたのだと本能的に付ける人はいないのです。目的を伴う行は、人の知性による自然な物であることから、人は自分たちを造した至高の智を持つ存在が、特定の目的を伴って自分たちを造したはずなのだと付けるのです。こうした理由により、人は人生の意を出すため、そして最終的に自分たちにとって有益となることを行うため、自らの存在の目的を知る必要があるのです。

私が自分のことを「真理の探求者」と呼んでいた19の、神を出すことの欲求をたすため、なる文化や信仰を求め多くの旅をしました。私は道教、魔、教、ラスタファリアン、ユダヤ教、フリメソン、キリスト教、ヒンズ教、精崇などをりました。イスラムについても12ページだけんだことはあったものの、それは自分自身の欲望をたすものではないと感じて直ちに退けました。私はムスリムがアッラを崇し、ムハンマド（神に慈悲と祝福あれ）を言者とし、一日5回の礼をすることだけは知っていました。

一日に5回! ?

それはかなりの重に思えました。それが天地の造者である神の宗教であるとはとても思えませんでした。

やがて21になろうかという、私は米国に国しました。私はそれまでにてきた宗教には足できていませんでした。私はだった医科大学に学することにしました。を提出し、入学を受け、事合格することができた私は、ミシガン州からグレイハウンドバス（距バス）にり、コロラド州へ向かっていました。その道中で、ろの席に座っていた若い男性に出会いました。名前をねるとイブラヒムといい、エンジニアになるためにアフリカから渡米し、大学へ向かっているところでした。

私たちは会を始め、彼は自分がムスリムであると言いました。それはどういう意味なのかとねると、彼はムスリムがアッラ 以外には崇にせず、ムハンマドがアブラハムの信仰における最の言者であることを信じているのだと言いました。

私はユダヤ教徒のにはイエスとムハンマドという2人の言者が出したこと、そしてキリスト教徒のには言者ムハンマドという言者が出したのだと付けました。

イスラムという宗教についてさらにをけていると、彼はムスリムが使用する小さな祈（ドゥア ズィクル）集をしてくれました。その中で、私が初めてんだものは以下のものでした。

“同位者なきアッラ の他、何一つとして崇にせず。かれにこそあらゆる主と称がされ、かれは全能なる御方なり。”

そのとき、私が探し求めていたものはイスラムの可能性が高いと感じました。その、私はアッラ とは何者なのかということについての本をみ始め、以下の2つのことに注目しました。

“アッラ の御名において。かれの御名以外には、地上もしくは天の何一つとして害をもたらしこともなく、かれこそは全者、全知者であられる。”

“アッラ よ、私またはあなたの被造物のうちのであれ、もたらされたいかなる恩も同位者なきあなたからのものに他なりません。あなたにこそすべての称と感あれ。”

私はイブラヒムの方を向いて、どうすればムスリムになれるのか いてみました。彼は「ラ イラ ハイッラッラ、ムハンマダッ=ラス ルッラ（アッラ 以外に崇にする神はなく、ムハンマドはアッラ の使徒である）」というシャハダと呼ばれる信仰言をしなさいと答えました。その言の内容を信じつつ言うのであれば、そのグレイハウンドバス内で直ちに私はムスリムになることができるのだと彼は言いました。それで私は15分に渡って彼と し合った、ムスリムになる 意をしました。これは7年前の出来事です。局、私は医科大学には行かず、自分の新たな信仰について学ぶことにし、ユタ州へと引っ

こうした法を きにしては、大 模な混乱と 秩序が全世界に まり、私たちが 在暮らしているような世界とは非常に なるものが出来上がってしまうでしょう。

・ある宗教についての 的 な判断を下そうとする には、その信奉者たちによってではなく、その教えによってなされるべきです。

・イスラ ムは完全な体系を有しており、人 が必要とするあらゆる 面における きを全人 に与えます。

・イスラ ムに し、各々が 践したいと 手に思っているような型に当てはめたり、えてしまったりすることは出来ません。私たちが自分自身をイスラ ムにそぐうように えていかなければならないのです。

・人 が 造された根本的な目的とは、神を崇 することです。しかし、全能なる神が人 の崇 を必要としている ではありません。神は自らの必要性を たすために人 を 造したのではないのです。

たとえ人 が一人たりとも神を崇 しなかったとしても、神の 光を させることはなく、全人 が一丸となって神を崇 したとしても、神の 光を 大させることはありません。神は完全 欠の存在であり、いかなる必要性もなく自存しています。あらゆる被造物は必要性を抱えており、人 こそが神への崇 を必要としているのです。

-なぜ人 は神に 示された法に基づいて神を崇 称 する必要があるのでしょうか？

なぜなら、神の法への服 は 世と来世における成功の だからです。最初の人 であるアダムとイブは天国において 造され、法に背いたことにより天国から追放されました。人 が天国に る唯一の方法とは法に うことに他なりません。

神の法は、人生のあらゆる 面において きを提供します。それは善 を定 し、あらゆる 事を司る完全なシステムを提供するのです。被造物にとって何が最善かつ有益なのか、そして何が有害かつ 益なのかを知り尽くしているのは 造者その方だけなのです。

神の法は人 の魂と身体、そして人 社会の保 のために 々な行いや物 を禁じます。人 が清く正しい人生を送る可能性を させるため、人 は神の立法に基づいた服 を通して崇 行 をしなければなりません。

私は 在既婚者となり、主 として子どもたちを育 中です。私は子どもたちの 本も制作しています。

また、ムスリムの信条、人格、礼 、商取引などの について 介する3つのウェブサイトの 管理人でもあります。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2214>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。